

訂正とお詫び

『頭頸部癌FRONTIER』Vol.4 No.2 (2016年12月号) 26～28ページ掲載「間質性肺疾患予防と対策 ― 通常の肺炎と間質性肺疾患の違い・予防するために―」(宮 敏路)において下記の誤りがございました。

◆ 27ページ 本文右段

小見出し「セツキシマブによる間質性肺疾患」

3行目～14行目の以下の部分を削除

メルク社の集計 (2012年12月21日～2015年12月31日) では推定8,120例の頭頸部癌患者で、間質性肺疾患は120例、発症率は1.4%, 死亡率が0.37%であった。性別では男性が多く、8週までに発症する人が多かった。また上咽頭癌よりも中、下咽頭癌に対するセツキシマブ使用例に多く、局所進行例のほうが再発転移例よりも多い。治療別には放射線療法歴のある症例で間質性肺疾患が多かった。したがって、局所進行例や下咽頭癌で多いのは放射線療法を行っている症例が多いためではないかと考えられる。また喫煙歴がある症例で間質性肺疾患が多い。ただしこれは全例調査ではないため、間質性肺疾患リスクとしてはまだ確定的なことはいえない。

関係者ならびに読者の皆様方にご迷惑をおかけ致しましたことをお詫び申し上げますとともに、謹んで訂正させていただきます。

株式会社メディカルレビュー社
『頭頸部癌 FRONTIER』編集部